

風水害に備えよう

今年も集中豪雨や台風などによる風水害の多い季節が近づいてきました。

梅雨の時期では、梅雨前線による大雨や長雨などにより、河川の氾濫や土砂災害が発生しやすくなります。中でも短時間に狭い地域に集中して降る「集中豪雨」には特に注意が必要です。集中豪雨は突発的に降るので予測が困難であり、時に大きな被害をもたらすことがあります。

そのような風水害に対して日頃から備えておくことや、被害を未然に防ぐ知識などを紹介します。

少しでも危険を感じたら自主的に避難するようにしましょう。

【知る】

●地域の状況を知る

お住まいの地域で過去に起こった災害などを知っておくことが大切。自主防災組織などで危険な場所、避難場所、避難経路などを確

認・点検し、落ち合う場所を決めておく。

●気象情報など情報の入手

台風の接近時や雨が降り続いたりした時などは、テレビやラジオで気象情報を収集し、十分注意する。※雨量などに関しては左図を参照。

【備える】

●非常持ち出し品の確認

飲料水や食料、避難のために必要なもの（懐中電灯、ラジオ、衣類など）、個人ごとの必需品（持病の薬、生理用品など）を確認。

●住まいの点検

- ・瓦やアンテナは固定されているか。
- ・雨どいが詰まってないか。
- ・外壁に亀裂はないか。
- ・窓ガラスにひび割れ、がたつきはないか。

雨量と水害

1時間に20ミリ以上の雨が降ると、地割れや地表が流されたり、がけ崩れの危険が予想されます。



1時間雨量
5～15ミリ

・地面に水たまりができ、雨の降る音が聞こえる。



1時間雨量
15～20ミリ

・地面一面に水たまりができ、雨の音で話が聞きとれない。



1時間雨量
20～30ミリ

・いわゆる土砂降り状態で下水があふれる。



1時間雨量
30ミリ以上

・バケツをひっくり返したような雨が降る。

【行動する】

●風水害時の避難の注意点

- ・動きやすく安全な服装で、足元は運動靴にする。
- ・道路などが浸水してしまったら側溝などが確認できないので、杖を持って足元を確認しながら歩く。
- ・単独では行動せず、家族や近所の人と行動する。
- ・避難勧告などが出ていなくても危険を感じたらすぐ避難する。

▽避難の呼びかけを待つて行動するのではなく、危険を早めに察知し、正しい情報に基づき早めの対応を心掛けましょう。家族や地域で協力し合い、対応することが被害の抑制につながります。

住宅の耐震化はお済みですか

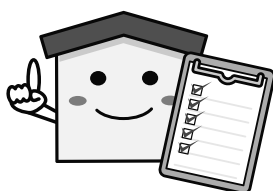
町では、南海トラフの巨大地震による犠牲者を無くすため、木造住宅の耐震化を進めています。

地震の揺れで家屋が倒壊すると下敷きになってしまったり、避難ができなくなってしまうだけでなく、倒れた家屋が道路を塞いでしまう可能性もあります。

お住まいの耐震診断・改修を検討し、南海トラフ地震に備えましょう。

このほかにも、避難路に面した危険なブロック塀などの撤去や家具の転倒を防止するための器具の購入・設置費の補助事業もあります。

申込には、申請書と必要書類を提出してください。詳しくは、左記までご連絡ください。



○お問い合わせ

本庁 情報防災課
南海地震対策係

☎ 43-2188

○お問い合わせ

【本庁】情報防災課 消防防災係

☎ 43-2188

【佐賀支所】地域住民課 総合窓口第1係

☎ 55-3113